

中海から羽ばたけ、世界へ熱いメッセージ（中央が森清氏の著書「母なる中海」）



隔週水曜
シリーズ

「世界には、多種な母語な言語が
ありませぬ」
「そもそも」言葉とは何なるか」と
考へる「音（おひ）」の變形で、と

るえられます。宇宙創造について「音
が先か、光が先か」と、よく言われま
すが、インドのヨガの考え方は宇宙
が誕生した時に「あーおーむ」と音が
したそうです（そういえば日本には
これに似た似た発音で「あーん」の呼吸
という表現があります）。
例えば、赤ちゃんが母胎から生まれ
た瞬間「オギャー」と第一声を発しま
すが、生まれて自分の間は、光は感じ
るもの目にはとんと見えないので
す。しかし、しっかりと耳は聞いている
とが、

情熱は宇宙へ広がる

よく、お母さんが赤ちゃんに話し掛
けるシーンを見掛けます。「ハセリち
ゃん、私がママよ」と言っても、赤ち
ゃんにしてみれば「私がママよ」と
言っているこの光の物体（母親）言葉
を発する元（が、ママと聞こえる音
（人物）なのかな？）と感じている
のは、どうでしょう。
音楽の世界でもよく言われますが、
「聴覚に優れたシンガー（フレイビー
ー・ワンダー）は歌がうまい」など、
音（ことば）＝聴力とは比例するの
は、どうでしょう。
この二つを、聞き分けはって存在
じですか。私はDJをしているせいか、
この聞き分けが案外得意なんです。実
際、家などでテレビを見ながらレコー
ドを聴けるので、とっても便利です。
時間の節約にもなりますし…（他人に
言わせると、変態なようですが）。
さて、本題に入りましょう（五月二
十一日付に続へ）。「そうです、そう
なんです。だから「もーためだ」と
か「やっても無理だ」とか「田舎はダ
サイ」など、マイナス発想の言葉は嚴
禁なのです。会社の中なら「マイナ
ストーク一回につき百円の罰金」くら
い考えたらいかげんしょうか？

先日、「母なる中海」汽水湖は二
世紀文明の子宮」（森清著、タイヤモ
ン社）という本に出会いました。干
拓問題でも揺れる中海を中心に、二十
一世紀の日本と世界へ向けて、独自の
「夢とロマンと使命感」に生きる、地
元山陰のベンチャー企業経営者の考え
と、山陰を愛する男としての情熱が如
実に描かれています。
その中でも「今やらすにしようやあ。
俺がやらすに誰（だれ）がやるー」
「歴史は一人から始まる、歴史は一人
ではできないー」が特に印象深い主張
です。
どなたかに小さなごでもみんながそ
う思えば、最高の山陰、最高の日本、
最高の世界と宇宙まで広がっていくよ
うな気がします。
（マイナストーク撲滅キャンペーン
！実行委員長・太田文盛でした）